

経営比較分析表（令和2年度決算）

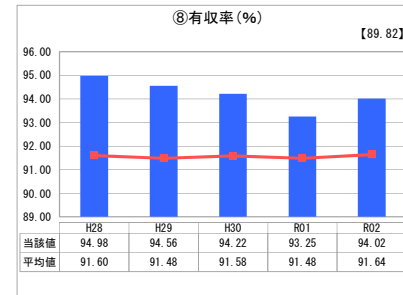
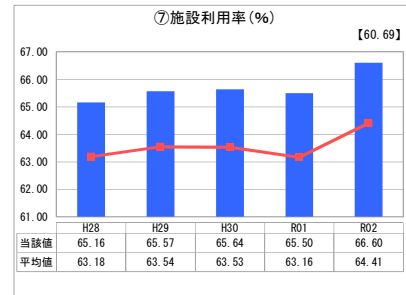
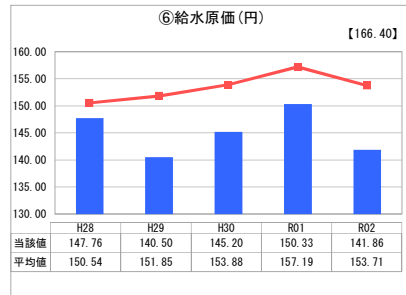
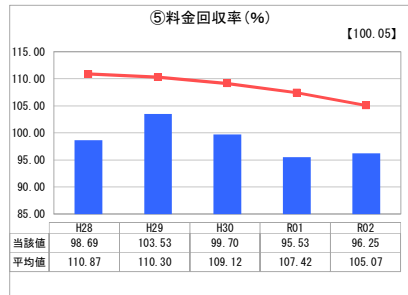
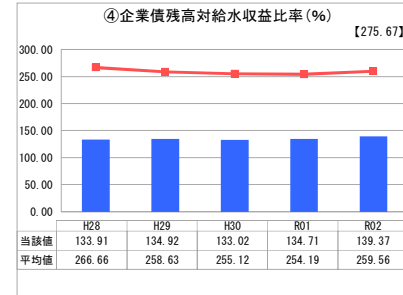
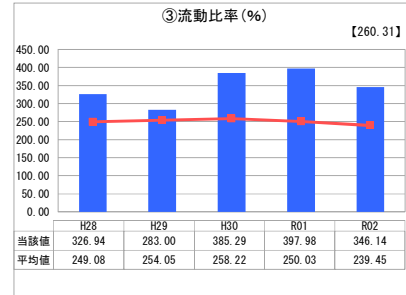
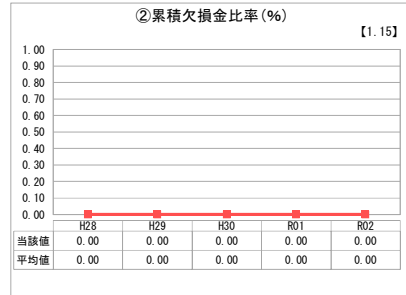
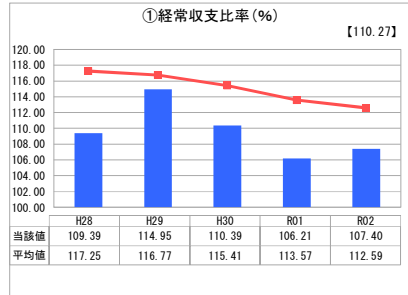
埼玉県 川越市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	79.65	99.99	2,145	

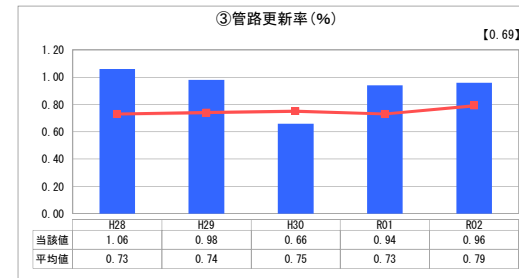
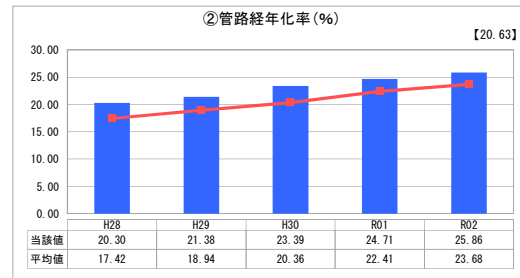
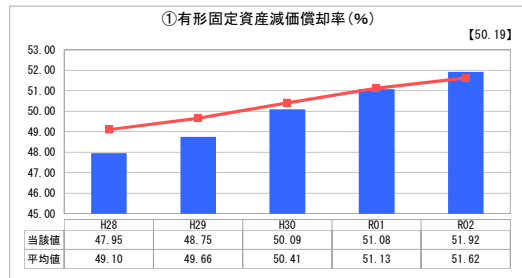
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
353,260	109.13	3,237.06
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
353,410	109.13	3,238.43

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
[]	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
類似団体より低い傾向であり、新型コロナウイルスの影響や、人口減少に伴う給水収益の減少等の経営環境の変化に応じた対策が必要です。

②流動比率
前年度より低下したものの、高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。

③企業債残高対給水収益比率
類似団体より低い傾向ですが、今後の更新事業の財源として世代間負担を考慮した適正水準の検討が必要です。

④料金回収率
100%を下回る傾向にあるため、今後想定される施設の維持や修繕等の費用を見込んだ適正な供給単価について検討する必要があります。

⑤給水原価
令和2年度は修繕費の減少等により、給水原価が大きく減少しました。類似団体より低い傾向にありますが、今後増加が見込まれる維持管理費や、営業費用の約4割を占める県水の購入単価の動向を注視していきます。

⑥施設利用率
テレワーク等の新しい生活様式の浸透により配水量が増加しましたが、適正な水準を確保しつつ適正な施設規模のあり方について検討が必要です。

⑦有収率
令和元年度に落ち込んでいた有収率は、平年並みの水準になりましたが、適正な水準を確保できるよう今後も老朽管更新等を計画的に続けていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体よりやや低く推移していますが、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的、効果的な償却対象資産の更新を行う必要があります。

②管路経年化率
類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。今後もアセットマネジメントに基づき、計画的、効率的に管路の更新を行っていく必要があります。

③類似団体よりおむね高く推移しています。アセットマネジメントに基づいた更新を行い、管路の機能保全を図っていく必要があります。

全体総括

各指標値は類似団体と比べて概ね良好であり、経営の健全性は保たれています。料金回収率の改善、管路や保有資産の老朽化対策が継続的な課題となっています。川越市上下水道ビジョンや川越市上下水道事業経営戦略に基づき、中長期的な視点で経費の削減、適正な料金水準等について検討を進める必要があります。